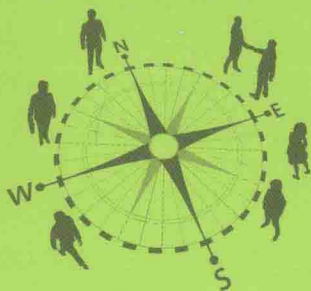


つまらない仕事が楽しくなる

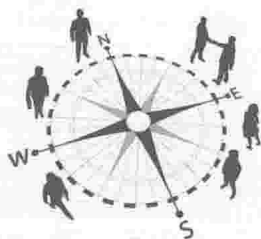
入社 10年目の 羅針盤



ライフネット生命保険副社長

岩瀬大輔 Iwase Daisuke

入社 10年目の 羅針盤



つまらない仕事から楽しむ章



ライフネット生命保険副社長

岩瀬大輔

Iwase Daisuke

PHP研究所

〈著者略歴〉

岩瀬大輔（いわせ だいすけ）

ライフネット生命保険株式会社 代表取締役副社長。

1976年埼玉県生まれ。東京大学法学部卒業。大学在学中に司法試験に合格。その後、ボストン・コンサルティング・グループなどを経て、ハーバード経営大学院に留学。卒業時に、日本人では4人目となる、上位5%に入る成績最優秀称号（ペイカー・スカラー）を受ける。帰国後、ライフネット生命保険設立に参画。2009年より現職。2010年、世界経済フォーラム（ダボス会議）「ヤング・グローバル・リーダーズ2010」に選出。2012年3月15日東証マザーズに上場。

著書に『入社1年目の教科書』（ダイヤモンド社）、『生命保険のカラクリ』『ネットで生保を売ろう！』（以上、文藝春秋）、『ハーバードMBA留学記』（日経BP社）、『132億円集めたビジネスプラン』（PHP研究所）などがある。

twitter : @totodaisuke

本書への感想はこちらにお寄せください。

daisukeiwase.php@gmail.com

入社10年目の羅針盤

つまらない仕事が楽しくなる

2012年7月4日 第1版第1刷発行

著 者 岩 瀬 大 輔
発 行 者 小 林 成 彦
発 行 所 株式会社PHP研究所

東京本部 〒102-8331 千代田区一番町21

文芸出版部 ☎03-3239-6256(編集)

普及一部 ☎03-3239-6233(販売)

京都本部 〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11

PHP INTERFACE <http://www.php.co.jp/>

制作協力 株式会社PHPエディターズ・グループ
組 版
印刷所 図書印刷株式会社
製本所

© Daisuke Iwase 2012 Printed in Japan

落丁・乱丁本の場合は弊社制作管理部(☎03-3239-6226)へご連絡下さい。送料弊社負担にてお取り替えいたします。

ISBN978-4-569-80591-7

入社10年目の羅針盤 目次

仕事は、他人の力を借りれば、 4倍楽しくなる

COMMUNICATION

- 1 できない仕事は、「借りる力」で解決せよ 26
- 2 ワンランク上の「おもてなし」をする 31
- 3 よき相談相手は検索エンジンに勝る 34
- 4 仕事は野球のチームと同じだ 36
- 5 ベテランの力を上手に借りて仕事をせよ 39
- 6 会社の飲み会に出なくても、チームワークは高められる 44
- 7 人脈は、好きな人を大切にすることで広がる 47
- 8 1つの真実、1つの正解があるわけではない 52
- 9 相手を好きになれば、相手も自分を好きになる 55
- 10 仕事をスムーズに進めるためには、これでもかというほど情報公開を 58

- 11 会話が続かないのは、話下手だからではない 61
- 12 相手の立場によって伝え方を変える 65
- 13 9割は「いい人」。意見の対立は立場の違いから生まれる 69

chapter 2 ▼▼

勉強が嫌いな人でも 人生の「学び」なら楽しめる

SKILL-UP

- 14 社会人になってからの「学び」は成長に直結する 76
- 15 目標とすべきロールモデルを見つけよ 79
- 16 自分の取締役会を持て。注意してくれる人はだんだんいなくなる 83
- 17 新聞記事はすべてオピニオンだと思っくらいがちようどいい 87
- 18 論理的に話すためには、まずは紙に書き出す作業から 90
- 19 I want to be Don Quixote. 英会話は発音よりもコンテンツ 92
- 20 ノルマは達成できなくても気にしない。まずは取引先にコツコツ種をまいておく 96
- 21 問題は「そもそも」と「いやいや」で因数分解していく 99

仕事を楽しくそうにしている人の秘密

MOTIVATION

- 22 困った時は「神頼み」してもいい。続けていれば「拾う神」あり 104
- 23 うまくいっていない時はどつしりと、うまくいっている時は謙虚に淡々と
- 24 地味な仕事にチャンスあり 112
- 25 望み通りの仕事に就いても、隣の芝生は青く見えるもの 115
- 26 単純作業こそ最高の英才教育 119
- 27 決断をする時のために、メンタルを最高の状態に整えておく 122
- 28 イライラしている自分を冷静に観察せよ 125
- 29 他人のイライラも受け入れよ 128
- 30 気分が乗らない時のために、力を発揮できるパターンを用意しておく 131
- 31 おじいちゃん、おばあちゃんになった自分を思い描く 134
- 32 今より幸せになる方法は2つある。人と比較しないことと、慣れないこと 136

不採用通知は、

自分の人生を闘っている賞状だ

CAREER

- 33 キャリアは努力よりも運命によって決まることのほうが多い 142
- 34 働くのは会社のためか、個人のためか。個人のために決まっている 145
- 35 「やりたいこと」へのこだわりを捨てれば、「なりたい自分」に近づける 148
- 36 天職など存在しない。悩み、迷いながら歩むこと自体がキャリア 151
- 37 公平公正な評価を期待してはいけない 154
- 38 不採用通知は神様からの「今はそこに行くな」というメッセージ 157
- 39 ビジネススクールとは、高級フィットネスジムに通うようなもの 161

仕事とプライベートは分けるな

PRIVATE

- 40 家族や恋人より大事な仕事はない 166
- 41 何かあった時のために「自家保険」を準備しておく 169
- 42 マンション購入は中古の割安物件を狙え 173
- 43 睡眠だけはしっかりとれ 176
- 44 ランニングは「寒すぎる日は走らない」くらいのほうが長く続く 180
- 45 より速く安全に走るため、自分の体を定期点検に出しておく 183
- 46 仕事とプライベートの境を持たないほうが平日も楽しめる 186
- 47 携帯を置いて、手帳を持って外に出かけよう 189

目的地までの旅を楽しむ

CHALLENGE

- | | | |
|----|---------------------------------|-----|
| 48 | 「少し危険だけど面白い手」を打ってみる | 194 |
| 49 | 海外では肩書きよりも中身。自分の主義主張を示せ | 199 |
| 50 | 一度きりしかないかけがえのない人生をどう過ごすか | 202 |
| 51 | 「海軍に入るより海賊になれ」 | 205 |
| 52 | 転職をするなら地方に行け | 207 |
| 53 | 世界に飛び出すなら、今が「やったもん勝ち」 | 210 |
| 54 | 人生は大陸を横断する旅のようなもの。早く着くことが目的じゃない | 213 |
| 55 | 一日一日を無駄にせず生きる | 216 |

はじめに

・楽しい仕事はない。でも、楽しく仕事をしている人がいるのはなぜか

あなたは今の仕事を楽しんでいますか？

僕はボストンのハーバード経営大学院に留学している時に、今後の人生の指針となる英文に出会いました。

Knowing “Just Enough”

ハーバードでは、「キャリアを通して何を実現できれば、成功した」といえるのか？」「あなたにとっての幸せとは？」といった、少し青臭い「青春の問い」のようなテーマをみんながよく議論していました。授業でもさまざまな文献を読んだのですが、その中の1つ、ハーバードの教授の著書の中に、Knowing “Just Enough”——「これで十分、満足したことを知る」という言葉があったのです。「足ることを知る」と置き換えてもい

いでしょう。何をもって自分が満足するか、それを知っている人こそが幸せになれる。逆に自分がどこで満足するかを知らない人は、たとえどれだけ物質的に恵まれても心は満たされず、永遠に幸せをつかむことができない。そんなふうに解釈できる言葉です。

当時、僕はまだ卒業後の就職先が決まっていなかったので、「自分はこれからどんな仕事をしようか。いったい何を達成することができたら自分は満足できて、よい人生だったと思えるだろうか」といったことを熟考していました。授業中は会計やマーケティングなどの勉強に忙しかったのですが、自分がどう生きていくかを決めることは、そのようなことよりも大切なことではないかと思えたのです。

しかし今の日本には、このような人生の目標を設定しないまま過ごしているビジネスパーソンが多いように感じます。口をついて出てくる言葉は、「仕事がつまらない」「やりたいたことができない」といった不満ばかり。

この本を手にとったあなたばかりではなく、あなたの周りにも「仕事がつまらない」という悩みを抱えている人はいるのではないのでしょうか？

理由はいろいろと考えられますが、ひと言でいえばそれはやはり、「足ることを知らない」からであるように思えます。どんなにいい仕事をして、どんなに高い給料をもらっ

ても、ただ上を目指し続けているのであれば、いつまでたっても満足感を得ることはできません。最初は楽しい仕事でもそのうちつまらないと感じてしまうはずです。貪欲に挑戦する姿勢はもちろん大事ですが、それでも自分がどこに向かっているかを明確に意識しなければ、自分を見失ってしまうでしょう。

何をもつて満足すべきかを知らない人は、属している会社の環境が悪いのではと考え、そのうち転職を経験すると思います。そういう人は結局、転職先でも自分の仕事に満足できず、つまらないと感じるはずです。何度転職しても同じことの繰り返し。その結果、給料は上がらず、スキルも身につかず、人間関係も構築できず、ますます仕事がつまらなくなるという悪循環。「面白い仕事、やりがいのある仕事はいつたどこにあるのだろう」「そもそも楽しい仕事なんてあるのだろうか」。そんなふうに思い悩むことでしょう。

でも僕は、はつきりということができます。

「仕事なんてそもそも、楽しくないのが当たり前」

多くの人は、「楽しい仕事」がどこにあるかと思っていて、それを探そうとしているように見えます。しかし求人情報を見て探したところで、そんなものはありません。「きつとどこかにある」と思っただけじゃありません。少し大げさにいえば仕事というのはいつも、面

倒なこと、嫌なことの連続です。自分が志望する会社に就職したはずなのに、仕事がつまらない、やりがいを感じられないという人は、まずこの大前提に気づくべきでしょう。

それでも実際には、仕事を楽しんでいる人はいます。僕は今、ライフネット生命の副社長という仕事を楽しんでいるし、周りを見ても仕事を楽しんでいる人はたくさんいます。「楽しい仕事はないといったのに、仕事が楽しいとはどういうことだ」と、矛盾を感じるかもしれません。しかし、僕がいたいのはこういうことです。

「この世に楽しい仕事とつまらない仕事があるわけではない。すべての仕事は気の持ちようによって楽しくもなるし、つまらなくもなる」

楽しい仕事がどこかに転がっているわけではないのです。仕事が楽しくなるかどうかは、自分自身の問題なのですから。

・楽しく働くための3つの仕事観

僕はライフネット生命の副社長を務める傍ら、北は北海道、南は沖縄まで、全国各地を講演行脚しています。多い時で週5回。2011年は100回近くの講演をしました。第

一の目的は自分の会社のことを広く知ってもらうことなのですが、「保険の話をしてください」というオファーよりも、「**仕事について悩んでいる20代・30代のビジネスパーソン向けに話をしてください**」と頼まれることのほうが増えています。

ありがたいことに、最近ほどの講演会場も満席に近い状態が続いています。終身雇用・年功序列社会が終焉する中で個人の働き方も一様ではなくなり、これまでのように「**右へ倣え**」^なさえしていれば、誰でもそこその幸せを手にするのできる時代ではなくなっています。そんな中で、働くことの意味を見出せない人が増えているのでしょうか。

講演のあとには、皆さんからの質問も受け付けています。

やりたいことを見つけるにはどうしたらいいか。仕事がつまらない、楽しく働けるコツはないか。いくら頑張っても給料が上がらない。将来のことを考えるとこのままでいいのか不安になる。上司に怒鳴られてばかりで会社に行く気もしない。部下が自分について来ない。どうしたらプレゼンがうまくなるか。転職はどういった基準ですべきか。起業したいけれど、何から始めればいいのか分からない。

聞いてみると、人それぞれの事情、悩みがあるのだと思いきわされますが、「仕事がつまらない」という悩みについては、率直に「もったいないな」と思います。先ほども述べ

たように、「楽しい仕事」があるわけではなく、そんなところで躓^{つまず}いては若いエネルギーと時間を無駄に費やしているだけではないかと思うからです。

では、どうすればいいのでしょうか。

先ほどの「足ることを知る」につながるのですが、それは、自分が仕事をいかに楽しむか、ということに尽きると思います。仕事がつまらないという人は、そもそも「働く」ということに対する考え方・姿勢が間違っているのかもしれない。それでは何をもつまらなくて当たり前です。一度、自分が何を大事にして働いているのか、整理してみるとよいでしょう。

僕の場合は、**①何をやるかよりも「誰とやるか」、②自分にしかできない「何か」はあるか、③社会に「足跡」を残したい。**この3つの仕事観を大事にしてきました。1つずつ解説していきます。

①何をやるかよりも「誰とやるか」

大学時代、司法試験に合格した僕は弁護士になるつもりでしたが、結局そのような選択はしませんでした。「どうして? もったいないよ」「岩瀬は変わっているな」と言わ

れたものですが、いろいろな法律事務所を訪問した僕の個人的な感想としては、みんなとても疲れた顔をしていて、精気が感じられない。そして何より、楽しく仕事をしている感じが伝わってこなかったのです。

自分になりたいのはそんな大人ではない。

そう思った時にインターンとして働いたボストン・コンサルティング・グループ（BCG）では、ウィットに富んだ人たちが活き活きと働いている。当時は今ほどコンサル会社が学生に認識されておらず、「その会社、何？」と聞かれるほどでしたが、それでも新卒でそこに入社したのは、「活き活きと働く人たちと仕事をしたいな」と思ったからです。

ライフネット生命を始める時も、最初に「生保をやる」と決めていたわけではありません。投資家の谷家衛さん（あすかアセットマネジメントCEO）に「新しいことをやろう」と言われて、「この人と何かやったら面白そうだな」と感じたから、起業の道を選んだのです。

仕事を選ぶ際には、「何をやるか」ということはなかなか自分では選べないものです。それに比べ「誰とやるか」ということなら、ある程度は選べます。

僕はいろいろ縁あつてネット生命保険事業をやっていますが、今一緒に働いている仲間